



教育目標 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

令和4年11月30日(水) 発行 第8号

『 ボランティア 』

校長 田代 雅規

コロナ禍で、なかなか実施できなかったボランティア活動が、この秋に少しずつ復活してきました。

ボランティアの定義について調べてみました。ボランティアの語源は、ラテン語の「voluntas（意志）」からきています。意味は、「自分の意志で自ら進んでやること」と定義されており、自発的な意思で人や社会に貢献することです。ボランティアは、「仕事、学業とは別に地域や社会のために時間や労力、知識、技能などを提供する活動」と言われています。そして、ボランティア活動には次の4つの大原則があります。

<ボランティア活動の4原則>

① 自発性・自主性

これは、誰かの指示や命令がなくても、自ら進んで行動することです。

② 無償性・互酬性

ボランティア活動をしたからといって、見返りをもとめることは基本的にしません。

ボランティア活動は、人や社会のために活動することで、報酬以外に、人との出会いや喜びを得られます。

③ 社会性・連帯性

ボランティア活動は、たくさんの人と会うことで、お互いに支え合い生きていくことを改めて学ぶことができます。

また、困っている人に協力することで、人との繋がりを広げることができます。

④ 先駆性・創造性

ボランティア活動では、すでにある仕組みや枠組みにとらわれず、何が必要なのかを考え挑戦できます。



日本では、1995年の阪神・淡路大震災がボランティア元年と呼ばれました。それまでは、ボランティア活動に参加するのは、一部の若者や女性が多かったようですが、震災があり、多くの人当事者となったことで、「自分たちで何かしよう」という動きが日本中に広がり、年代も職業も多様な層の人たちに広がりました。

実際にインターネットで調べてみると、ゴミ拾いボランティア、炊き出しボランティア、病院ボランティア、スポーツボランティア、地球温暖化ボランティア、難民支援ボランティア、環境ボランティア等、様々な種類のボランティアがあり、参加者を募集していました。

ボランティア活動に参加することのメリットとしては、自分の知らない人たちと交流できて、幅広い年代の人たちと関係をもつことで、より人間関係を広げられること、普段出会えない人とつながれば異なる価値観や考え方を学ぶ機会となります。そして、何といても困っている人を直接支援して、問題を解決する機会が多くあり、周りの人から「ありがとう」と言われることで、他の人の役に立つことが自覚でき、自信にもつながります。この他にもボランティア活動を通して、様々な地域の文化に触れ、新しい学びを得ることもつながります。

中野中にも連携している小学校や地域の方から、ボランティアの募集があります。ボランティア活動の意味を理解し、自分の意志で参加してほしいと思っています。

芋掘りボランティア 11月6日(日)



中野区非行を生まない社会づくり連絡会及び中野区青少年対策連絡会主催の「さつまいも掘り」体験に1年生のボランティア生徒17名が参加しました。当日は、谷戸小学校の児童60名の面倒を見たり、芋掘りや豚汁作成のお手伝いをしました。朝早くからバスで川越の荒幡農園に出かけ、一日中頑張りました。

参加した生徒の感想は、「初めてボランティア活動に参加しましたが、農園の方達がとても優しく教えてくれて、上手に芋掘りすることができました。小学生もとてもかわいくて、一緒に遊ぶのが楽しかったです」「ふかし芋や豚汁を小学生に配りました。みんな笑顔で『ありがとうございます』と言ってくれて、ボランティアしている僕たちも嬉しかったです」「たくさんの方がこの芋掘りに関わっており、世代を越えて交流することができました。こういう機会にたくさん参加したくなりました」「たくさん芋を持ち帰ったので、家族も喜んでくれました。とてもおいしかったです」「初めてのボランティア活動でした。それがこの芋掘りボランティアでよかったです」など、前向きな意見がたくさん出ました。

これからも中野中生のボランティア活動に期待しています。



食育講演会 11月12日(土)



『スポーツ力をあげる食事～食べ物の好き嫌い～』をテーマに管理栄養士の平林沙織さんをお招きして、お話を伺いました。平林さんは、アスリートの栄養指導やメニュー開発、セミナー講師等をメインの仕事にしている方です。

講演では、食べ物の好き嫌いは、嫌いという食材があっても良い、無理矢理食べるものではないというお話がありました。一流のスポーツ選手のイチローさんや宇野選手も野菜嫌いで有名だそうです。でも、一流の選手は食材の栄養が偏らないように、違う食材で補ったり、苦手な食材も調理方法を変えたりして、食べる工夫をしているものもあるという話をされました。また、苦手な食材がある場合には、なぜ苦手なのかを考えることで、克服する方法も見つけられる場合があり、ポジティブに食事を楽しんでほしいと話されました。



社会貢献活動・講演会 11月14日(月)



2年生では、総合的な学習の時間の取組として、社会貢献活動調査を行っています。これは、社会貢献活動を行っている公共機関や民間企業がどのようなねらいで、どのような取組を行っているか調べる学習です。今回はFC東京ホームタウン開発部の須藤さんに来ていただき、お話を聞きました。

FC東京は、サッカーチームとしてJリーグの優勝を目指していますが、それだけでなく、東京にあるサッカーチームとして、都民の皆さんに豊かな暮らしを提供したいという理念で様々な活動をしています。少年院を訪問して、社会復帰に協力したり、インクルーシブフットボールの体験会を企画したり、地域と連携して防災サッカー大会を企画したりしていると説明され、生徒は真剣に聞いていました。実際にFC東京のユニホームも着せていただき、映像も交えて楽しい講演会となりました。



中野中 10周年 SDGs



中野中 10周年記念の最後にテープの滝として使用した金色・銀色の紙テープを、使用後は処分してしまうのではなく、クリスマス用のリング飾りにしました。2年生が職場体験でお世話になった保育園や幼稚園に相談したところ、クリスマスの装飾に使用してくださることになりました。2年生のお世話になった生徒たちが、放課後協力してリングの作成を行っています。

また、展示用に作成した小平奈緒さんの等身大のパネルは、長野県茅野市にある国際スケートセンター（NAO ICE OVAL）にある小平奈緒さんの展示コーナーに展示してもらえることになり、11月21日（月）に運びました。23日（水）には、小平奈緒さんのスケート教室が開催され、参加した小学生や中学生から喜ばれたとの報告がありました。



働く人の話を聞く会 11月29日(火)



1年生は「総合的な学習の時間」を使ってさまざまなキャリア学習に取り組んでいます。夏休み前には「ボランティア」について、その意義や目的を考えました。夏休み以降は「働く」ということについて、身近な職業を本や iPad を使って調べたり、何のために働くのかを考えて意見を共有したりしました。

そして今回、29日(火)6校時に第1学年を対象に「働く人の話を聞く会」を行いました。中野区内の7名の講師の方をお招きし、1年生に向けて以下のことを中心にお話いただきました。

- 現在の仕事の概要
- その職業に就こうと思ったきっかけや、こんな性格が向いていたと感じたエピソード
- 働き始めて一番やりがいを感じた出来事
- これからの社会の変化に向け、自分が働き続けるために現在心がけていること
- 講師の先生にとって『働く』とはどんなことか
- 中学生のうちに経験しておいた方が良いこと

1年生はこの日に向けて、お話を聞く方の業種や会社について調べ、グループで情報を共有しました。その後、講師の方に聞いてみたいことを考えるなどして、ご講話が聞けることをとても楽しみにしていました。当日は講師の方のお話も熱心に聞き、メモをとっている様子が印象的でした。

事後学習ではご講話の中から伺ったことや、そこから考えたことをスライドにまとめ、クラスで発表する予定です。



«生徒感想より»

■“働く”とは、人と関わり、誰かの役に立つことをすることだと知りました。 ■なりたい自分になるためには、「課題」を見つけ、解決していくことが大切だと学びました。 ■最初は自分のやりたい仕事ではなくても、経験を積んでいくうちにやりがいや大切なことを学んで、自分の仕事に誇りをもっていることがかっこいいなと思った。

〈ご協力いただいた講師の先生方〉

- ・【建設業】武蔵野建設産業株式会社 代表取締役 新井 建喜 様
- ・【介護事業・人材紹介業】株式会社アスモ 代表取締役 花堂 浩一 様
- ・【証券業】大和証券株式会社 支店長 江草 和洋 様
- ・【美容関係】株式会社クラルス 代表取締役 榎本 学 様
- ・【豆菓子製造卸業】株式会社川越屋 代表取締役 上原 勲 様
- ・【法律関係】弁護士法人平田法律事務所 弁護士 山本 将貴 様
- ・【不動産賃貸・管理・コンサルティング】株式会社スペース 業務推進室グループ統括 高山 怜士 様